

第 6 回エルトゥールル号事件追悼記念行事

(2015 年 4 月 5 日 (日) 於：NGBB 植物園)

4 月 5 日、当地建設業大手 TEKFEN 社を母体とするアリ・ニハット・ギョクユイト (ANG) 財団が運営するネザハット・ギョクユイト植物園 (NGBB) 内のエルトゥールル号記念区域において、今年で第 6 回目を迎えるエルトゥールル号遭難事件の犠牲者を追悼する記念行事が行われました。

今年は、エルトゥールル号遭難事件から 125 周年、式典の会場であるネザハット・ギョクユイト植物園が開園してから 20 周年、そしてエルトゥールル号遭難事件犠牲者を追悼するために日本から同庭園に贈られた桜の苗木が植えられてから 10 周年と 3 つの節目が重なった記念行事となり、関係者にとっては、例年の行事よりもさらに思いの込められた行事となりました。

式典冒頭には、イスタンブール在住の日本人の方々により結成された琴グループ「君府・芙蓉の会」により日本とトルコの歌曲が演奏された後、黙祷、両国の国歌吹奏、ギョクユイト ANG 財団会長の開会の辞、福田総領事のスピーチに続き、コルル・トルコ海軍中将のスピーチが行われ、続いてトルコ海軍管弦楽団の歌と演奏が行われました。その中でも特に「さくら」と「いい日旅立ち」を日本語で熱唱したトルコ海軍管弦楽団の歌い手は、拍手喝采を浴びていました。式典に参加した日本人も、トルコ人による思わぬ日本語の歌の贈り物に感激している様子でした。

エルトゥールル号記念区域内の犠牲者慰霊碑の周りに植えられた、満開の桜の花は、今年 125 周年になるエルトゥールル号遭難事件が、日本人とトルコ人を強く結びつける発端になったことを両国の人々に改めて思い出させてくれるかのように見事に咲き誇っていました。



琴とフルートによる日本とトルコの歌曲演奏



開会の挨拶をするアリ・ニハット・ギョクユイト会長



挨拶をする福田総領事



挨拶をするコルル・トルコ海軍中将



日本の歌を熱唱するトルコ海軍管弦楽団員



「君府・芙蓉の会」会長へ感謝状授与



見事に咲きそろった桜の花



エルトゥールル号遭難事件犠牲者慰霊碑のまわりに
植えられた桜の木々